

活動実績報告書

平成26年4月16日

登録番号 20130321

氏名 大竹由郎

1. 活動状況

平成23年4月 ~ 平成26年3月

・活動の概要

市町村森林整備計画が地域のマスタープランとして位置づけられたことから、実行性のある計画内容を検討するため、担当地域の2市5町について、専門的な技術や知識を有した地域の関係者による「市町村森林整備計画作成作業チーム」を設置し、平成23年度中に行う計画の一斉変更や地域の関係者との合意形成を適切に進めることとした。

平成24年度から平成25年度までは、策定した計画を実行性あるものとするため、作業チームを「市町村森林整備計画実行管理推進チーム」に再編し、森林経営計画の作成推進や計画に基づく森林の整備・管理の推進に取り組んでいる。

・当該活動を挙げた理由

当該活動は、地域の森林の構想（マスタープラン）である市町村森林整備計画を地域の関係者と連携・協力しながら作成し、最終的に構想について合意形成を図ることができたという点で、フォレスターの役割の一部を担うことができたと考える。

・当該活動における、あなたの立場と役割

平成23年度中に准フォレスター研修を受講することになっていた私は、フォレスターとしての立場から、作業チームの運営を担う市町のサポートや、計画の作成に当たり関係機関からの情報収集や技術面からのアドバイスを行った。また、学識経験者として作成された計画案の意見聴取にも応じている。

平成24年度以降も、フォレスターとしての立場から実行管理推進チームの運営のサポートや技術面からのアドバイスを行っている。

・活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

担当地域の市町の林務行政担当者は、ほとんど専任化されておらず、短期間での異動による経験不足や他の係との兼務などにより主体となって運営する体制が十分に整っていない。そのため、作業チームの設置後は、スケジュールの管理や構成員の役割分担などについて提案や助言を行い、積極的に運営のサポートを行った。

・活動の成果で残された課題及び今後の改善方策

平成23年度に行った作業チームによる市町村森林整備計画の作成作業では、作業や準備の時間が限られていたため、計画案の作成を優先するあまり、全ての構成員から意見等を十分に引き出して、計画案に反映させるまでには至らなかったと考える。

平成26年度は市町村森林整備計画の樹立年に当たるため、構成員については一人一人が実行管理推進チームの中で、役割を果たすことができるように役割の明確化を図り、市町に対しては、今まで以上に主体性を持って運営に関わることができるように、スケジュールの管理や運営方針などの見直しをしたい。

2. 研修の受講状況

研修名 平成23年度日本型フォレスター育成研修事業
(准フォレスター研修) 平成23年9月
(実施主体) 林野庁

研修名 平成23年度日本型フォレスター育成研修事業
(通信研修) 平成24年1月
(実施主体) 林野庁

研修名 平成24年度コミュニケーション研修 平成25年2月
(実施主体) 林野庁 森林技術総合研修所

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

注2: 2. 研修の受講状況、及び3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況については、直近の過去5年間に取り組んだ具体的な内容と時期を記載してください。

注3: 活動実績報告書は、A4で全2枚としてください。

注4: この活動実績報告書は、このままPDF化して林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特定等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。